

千葉大学病院にて肝胆道疾患の手術を受けられた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2023年4月20日

肝胆膵外科

肝胆膵外科では「肝切除後残肝容量増大を企図した術前門脈塞栓術による肝再生の予測因子に関する研究に関する研究」を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に情報等を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2003年1月1日～2023年3月31日の間に肝胆膵外科で肝臓、胆道疾患に対し手術を受けられた方

1. 研究課題名

「肝切除後残肝容量増大を企図した術前門脈塞栓術による肝再生の予測因子に関する研究に関する研究」

2. 研究期間

2023年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

肝切除術は肝胆道疾患、なかでも肝臓、胆道癌に対する強力な根治的治療手段ですが、肝切除術は手術を受ける患者さんの身体的なストレスも非常に高く、様々な術後合併症を一定の率で伴います。そのような合併症のひとつに術後肝不全があります。これは肝切除後に残った肝臓が十分に機能せず、場合によっては致命的となり得る重篤な合併症ですが、これを回避するためには切除後の残りの肝臓の大きさを十分に確保しつつ肝切除を行うことが必要です。しかしながら腫瘍の大きさや場所により残肝容量不足が予測される症例も少なからず存在します。このような場合、肝臓の切除予定部位に流れ込む

門脈という血管を塞栓する（流れを止める）ことにより残る予定の肝臓を大きくさせる方法（門脈塞栓術）を行う場合があります。これにより大量肝切除や脂肪肝、黄疸などにより機能が低下した肝臓の肝切除後の重篤な合併症・肝不全死を減少させ、入院日数の短縮が得られることが報告されています。一方で門脈塞栓術を施行しても、十分に肝臓が大きくなることがありこのような場合は根治切除が施行できないことがあります。門脈塞栓術後に肝容積の増大に関わる因子および増大率の予測についてのデータはいまだ不十分で、さらに増大した肝臓の機能評価方法などについてもまだまだ検討の余地があります。

以上のようなことを背景に、本研究では、門脈塞栓術後の肝臓の増大を促進、あるいは抑制する因子、大きくなった肝臓の機能評価等について明らかにします。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

2003年1月から2023年3月までの間において、診療録に記載されている性別、年齢、身長、体重、病歴、血液検査値、診断、当科で行った術前、術後の検査、治療の結果、手術の方法、合併症、門脈塞栓術施行後の肝臓の容量（大きさ）、施行前と比較した変化、治療経過、予後について調べます。

5. 研究組織

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院 病院長 横手 幸太郎

研究責任者 肝胆膵外科 科長 大塚将之

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた個人情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、厳重に管理します。データ等は、千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教室の鍵のかかる保管庫で保管します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細

については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に試料・情報等を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はございません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等がございましたら、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口：〒260－8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1－8－1

千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科

医師 大塚将之、酒井望

043（222）7171 内線5286